

令和2年度 東山田地域ケアプラザPDCAシート\_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

【東山田地区】東山田1丁目から4丁目は港北ニュータウンに属し、東山田町は古くからの町並みを一部に残している。長く東山田地区に居住する住民と港北ニュータウンに居住する比較的新しい住民とが連合町内会の取り組みを通し相互に協力しながら安心安全を目指す町づくりがなされている。地域福祉保健計画に関する取り組み等は連合として目標を意識し、達成に向けての取り組みは単位町内会ごとの活動を実施しており、住民は属している町内会以外の取り組みにも自由に参加できる様子がうかがえる。

【山田地区】すみれが丘町内会、南山田町内会、北山田町内会の3単位町内会で構成されている。多くのマンションが並び、町内会と自治会それぞれが地域づくりを行っているが、自治会をもたない大型マンションや町内会自治会に参加していない賃貸の住居も多数存在する。また各町内会が大きいため連合としての活動に困難さを感じている様子がうかがえる。すみれが丘は、最も高齢化がすすんでいる。高齢社会を意識した町内会の枠組みにとらわれないボランティア活動を実施する構成員がいる。北山田は北山田駅周辺を中心に若い世代の住民が多く子育て地区といえる。学習塾や障害児の放課後デイサービスが増えている。一方で6丁目はすみれが丘と並んで高齢者の多い地域となっている。商業振興会の活動も盛んで山田富士公園を活用した祭ではエリアを超えた住民の参加の様子がみられる。町内会の役員は年々若返りを図っており新しい町内会の在り方を模索している様子がうかがえる。南山田は1丁目から3丁目が港北ニュータウン内に位置し、南山田町が古くからの町並みが残る地域となっている。南山田町は高齢者が多い地域となっている。民生委員が中心となってカフェの運営がなされており介護予防に関する意識が高い。どの地域もコロナ禍においても、どの地域も高齢者の見守り活動を実施したり感染予防をしながらいかに活動を再開できるかを話し合う場面も見られている。

【課題】

- ①各地区で交通の便を考慮したつどいの場合が必要。(交流、介護予防等)
- ②総合相談に見られる傾向として多問題ケースが増えている。
- ③地域の担い手の高齢化に伴う活動の継続の困難さ。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	「おさんぽカフェ」を通して障害理解を深め相談者に適切な情報提供ができるようまるとプロジェクトと連携する。必要に応じ、カフェの時間を活用し相談につなげる。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	東山田地域ケアプラザエリア連絡会を開催し、地域の情報や課題について共有を図る。 1回以上/年
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	エンディングノートの配布及びノートの書き方とその使用方法を説明をする中で、併せて成年後見制度や消費者被害等についての注意喚起を行う(頻度:月1回以上)。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の高齢者が集う活動の場として、介護予防普及強化事業を実施する。(年2事業)
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	包括エリアケア会議(兼協議体)を実施する。 「山田地区認知症の見守り」「北山田地区での介護予防活動の見える化」「東山田4のちょっとした助け合い」について検討できる包括エリアケア会議(兼協議体)を実施する。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

区からのコメント